

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | | | |
|---------------------------|--|---|---|-------------|---------------------------------|-------------|----------------|-------|---|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 京都府京田辺市大住立原1-1 | | | | | | | | |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） | 株式会社明治 京都工場 工場長 安達秀明 | | | | | | | | |
| 事業者の主たる業種 | 乳製品製造業 | | | | | | | | |
| 該当する事業者要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | | | | | | |
| 計画期間 | 20年 4月 ～ 23年 3月 | | | | | | | | |
| 基本方針 | 地球温暖化防止に向けエネルギー使用の合理化を行う。 | | | | | | | | |
| 推進体制 | 省エネルギー推進組織による省エネルギーパトロールの実施及び設備老朽化更新による能力効率向上 | | | | | | | | |
| | 環境マネジメントシステム名称 | ISO14001 | | | | | | | |
| | 適用範囲 | 省エネルギー・廃棄物の削減・省資源・大気環境負荷低減 | | | | | | | |
| | 取得年月日 | 2000/10/27 | | | | | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の状況 | 年度 | 設備、対象、工程等 | 措置内容 | | | | | | |
| | 21 | 放熱ロス対策 | 蒸気配管及び過熱・加温配管の保温見直し及び殺菌プレート設備の保温工事による放熱ロス削減（ファイジャケット採用） | | | | | | |
| | 21 | 照明 | 場内不要点灯照明の見直し及び屋外照明各所にデイライト設置 | | | | | | |
| | 21 | 冷凍機 | アイスクリーム製造設備の冷凍機能力適正化 | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 排出区分 | 基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算） | 目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （計画） | 報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （実績） | | | |
| | A 事業所等排出区分 | 26,733.0 t | 25,931.0 t | -3.0 % | 26,577.1 t | -0.6 % | | | |
| | B 輸送車両排出区分 | t | t | % | t | % | | | |
| | C その他排出区分 | t | t | % | t | % | | | |
| | 排出合計 | *1 26,733.0 t | *2 25,931.0 t | -3.0 % | *4 26,577.1 t | -0.6 % | | | |
| | 実績に対する自己評価 | 平成22年度は増設生産設備の稼働や、設備更新に伴うテスト運転など、前年に比べエネルギー使用量が目標の-3%削減が行えませんでした。しかし、新設備の室内照明にLED照明を採用したり、会社全体での省エネ提案推進などを行っています。 | | | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 用途区分 | 原単位の指標 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | | |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % | | % | | |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % | | % | | |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % | | % | | |
| | 実績に対する自己評価 | 平成22年度は増設生産設備の稼働や、設備更新に伴うテスト運転など、前年に比べエネルギー使用量が目標の-3%削減が行えませんでした。しかし、新設備の室内照明にLED照明を採用したり、会社全体での省エネ提案推進などを行っています。 | | | | | | | |
| その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 | 対策等の区分 | 目標年度（計画） | | | 報告年度（実績） | | | | |
| | | 取組量等 | （二酸化炭素換算） | | 取組量等 | （二酸化炭素換算） | | | |
| | 森林の保全及び整備 | （整備面積） | ha | （吸収量） | t | （整備面積） | ha | （吸収量） | t |
| | 府内産の木材の利用 | （利用量） | m ³ | （削減量） | t | （利用量） | m ³ | （削減量） | t |
| | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （発電量） | kwh | （削減量） | t | （発電量） | kwh | （削減量） | t |
| | | （熱供給量） | GJ | （削減量） | t | （熱供給量） | GJ | （削減量） | t |
| | グリーン電力の購入 | （購入量） | kwh | （削減量） | t | （購入量） | kwh | （削減量） | t |
| | 家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入 | （購入量） | t | （削減量） | t | （購入量） | t | （削減量） | t |
| | 削減量等合計 | *3 t | | | *5 t | | | | |
| | 差引排出量 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | | | |
| | （排出合計-削減等合計） | *1 26,733.0 t | (*2)-(*3) 25,931.0 t | -3.0 % | (*4)-(*5) 26,577.1 t | -0.6 % | | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | 社用車をハイブリッドカーに変更したため、ガソリン消費量が前年の約1/3に減少。また、芝生エリアの増設で緑地化の拡大を行いました。新設備の室内照明にLED照明を採用したり、会社全体での省エネ提案推進などを行っています。 | | | | | | | | |
| 特記事項 | | | | | | | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。